

(参 考)

請 願 ・ 陳 情 文 書 表 (その2)

(陳 情)

陳情第2号

青森市のまちづくりに関する陳情(不採択)

(陳情の趣旨)

新聞報道によると、青森市は、今後、市役所庁舎整備事業に約100億円、青森駅周辺整備事業に約82億円などの財源を投入することにより、平成31年度末には基金残高が5800万円に激減するそうである。また最近の報道では、事業費そのものもさらに増大することが懸念されている。

こうした中、中心市街地の核的施設であるアウガについては、青森市が直接財政支援を続けているにもかかわらず、採算がとれない経営から脱却できず、その存続について重大な判断を迫られている。

一方で、昨年8月に青森グランドホテルが営業を終了し、同年11月に青森駅前にあるサンフレンドビルが青森地方裁判所から競売開始の決定を受け、本年2月には千葉室内が自己破産し、さらには古川地区において民間事業者が進める再開発事業が一時休止になっており、中心市街地には多くの課題がある。

このように衰退していく中心市街地の活性化のみならず、人口減少、少子高齢化、雪対策など多くの課題を抱える状況において、多額の市民の血税を投入して市役所庁舎整備事業や青森駅周辺整備事業を進めることは、青森市のまちづくりに関して、本当に今やらなければならないことなのか、甚だ疑問である。

また、青森駅を中心としたまちづくり基本計画の策定は平成24年2月、青森市役所庁舎整備基本計画の策定は平成25年5月であり、それぞれ策定されてから数年が経過していることから、その間に世の中は大きく変化していることを考慮し、当時の計画をそのまま進めるのではなく、これまでの社会の変化に対応するとともに、これからの社会の変化を見据えて計画を修正すべきときにある。さらに昨今の建設コストの高騰や、それに伴って大型公共工事の入札不調が多発している現状からも、コスト面及び機能面の合理化を検討すべきときにもある。

については、上記を踏まえ以下のことを陳情する。

(陳情事項)

- 1 現在進められている市役所庁舎整備事業と青森駅周辺整備事業については、今後の社会の変化を見据えた上で、アウガ等の他のまちづくり要素とも複合的に関連させ、市民を交えたコスト面及び機能面の合理化を図るバランスのとれたまちづくりの検討を行い、そのことを各事業に反映させ、コスト削減及び機能の合理化を実現させること。

平成27年2月25日

陳 情 者 青森市長島二丁目13-5
あおりグランドデザイン会議
代表 田川 伊吹

陳情第28号

議会報告会の結果検証に関する陳情(その1)(不採択)

(陳情の趣旨)

平成26年5月18日日曜日に市内4カ所で開催された平成26年第1回青森市議会議会報告会の参加人数は、4カ所合わせて18人であったが、日曜日にもかかわらず、4カ所で開催しても合わせて18人しか参加しなかったことに関しては、市民の参加意欲が極めて低いと言わざるを得ない。過去3回の議会報告会の参加人数は平成25年第1回が34人、平成25年第2回が21人、平成26年第1回が18人と回を重ねるごとに減っている。

市民側の参加意識の低さの問題もあるが、議会として議会報告会開催後の結果検証が必要である。よって、以下の項目の実施を求める。

(陳情事項)

- ・次回議会報告会の開催地域をふやし、議会として事前に議会報告会への参加人数の目標を設定すること。

平成27年2月25日

陳 情 者 青森市奥野三丁目2-5
エバーグリーン305号室
青森のこれからを考える会
代表 倉内 一哉

陳情第29号

議会報告会の結果検証に関する陳情（その2）（不採択）

(陳情の趣旨)

平成26年5月18日日曜日に市内4カ所で開催された平成26年第1回青森市議会議会報告会の参加人数は、4カ所合わせて18人であったが、日曜日にもかかわらず、4カ所で開催しても合わせて18人しか参加しなかったことに関しては、市民の参加意欲が極めて低いと言わざるを得ない。過去3回の議会報告会の参加人数は平成25年第1回が34人、平成25年第2回が21人、平成26年第1回が18人と回を重ねるごとに減っている。

市民側の参加意識の低さの問題もあるが、議会として議会報告会開催後の結果検証が必要である。よって、以下の項目の実施を求める。

(陳情事項)

- ・議会報告会開催後、参加議員が反省会を開き、反省点と次回への改善点を含む報告書を作成し公開すること。

平成27年2月25日

陳 情 者 青森市奥野三丁目2-5
エバーグリーン305号室
青森のこれからを考える会
代表 倉内 一哉
